



山本かよこの

山本香代子

にこにこ通信



心のふれあう江東区、あなたのそばに“開かれた区政を”

平成18年 9月号

- 昭和36年3月18日 深川冬木生まれ A型 魚座
- 昭和42年 双葉幼稚園卒園
- 昭和48年 江東区立明治小学校卒業
- 昭和51年 江東区立深川第二中学校卒業
- 昭和54年 都立東高等学校卒業
- 平成11年 区議会議員 初当選
- 地域活動/深川消防団第6分団班長(現在2期目)

発行: 山本かよこ事務所 TEL 03-3630-2278 FAX 03-3630-8978
〒135-0041 東京都江東区冬木21番22号

✉ 2525kayoko@mx10.ttcn.ne.jp URL <http://www1.ttcn.ne.jp/~yamakayo>

江東区議会 新生クラブ 幹事長(無所属)

討議資料



皆さん、こんにちは。江東区議会議員の山本かよこです。

秋風とともに肌寒く感じられる季節となりました。

江東区議会におきましては、9月20日から会期31日間の日程で10月20日まで第3回区議会定例会が開かれます。今回の定例会では、平成18年度補正予算審査特別委員会、平成17年度決算審査特別委員会をはじめとする17件の議案が審議されます。

安心して暮らせる 災害に強いまちづくり

江東区はもともと東京湾に注ぐ河川のデルタ地帯の一部で、沖積層という軟弱地盤におおわれており、地盤も低く内部河川が多いことから災害に弱い地帯といわれています。このような地質条件に置かれている江東区に大地震が発生したら、その被害は計り知れないものがあります。

そこで、災害に強いまちづくりをめざして、道路や防災拠点の整備、避難所に指定している学校・公共施設等の耐震補強、橋の耐震化など、内部河川の整備を進める一方、備蓄物資・災害救助物資の確保、「災害協力隊」をはじめとする区民防災組織の拡充など、防災センターを中心とし、それぞれの防災関連部署が連携を図りながら様々な防災対策が進められています。防災センター4階の「災害対策本部」では災害時における情報収集・伝達の拠点として、大規模な災害が発生し、または発生するおそれがある場合に、区長を本部長として設置され、災害情報の収集・伝達や避難所開設の指示等が行われます。



◎ 確かな情報を伝えるために

発生直後には、電話の不通やデマの発生による情報の混乱が予想されます。区内の情報を収集し、区民の皆さんに正しい確かな情報を提供するために、防災行政無線をはじめとした通信ネットワークを整備しています。

被害を最小限に食い止めるため、減災に対する取り組みをハード・ソフトの両面から進められています。

- 自助** (自らの生命は自らが守る) 一人ひとりの防災力
- 共助** (自分たちのまちは自分たちが守る) 連携による地域力
- 公助** (区民の生命と財産を守る) 行政としての支援体制の強化

いつ起きるかわからない、いつかは必ず来ると言われている大地震に備え、自助・共助・公助とそれぞれの役割分担のなかで、区民一人ひとりが防災意識をしっかりと持ち、家庭や地域、職場でそれぞれの役割を果たすとともに、防災知識を身につけ防災力を高めていくことも大切です。

もしも大地震



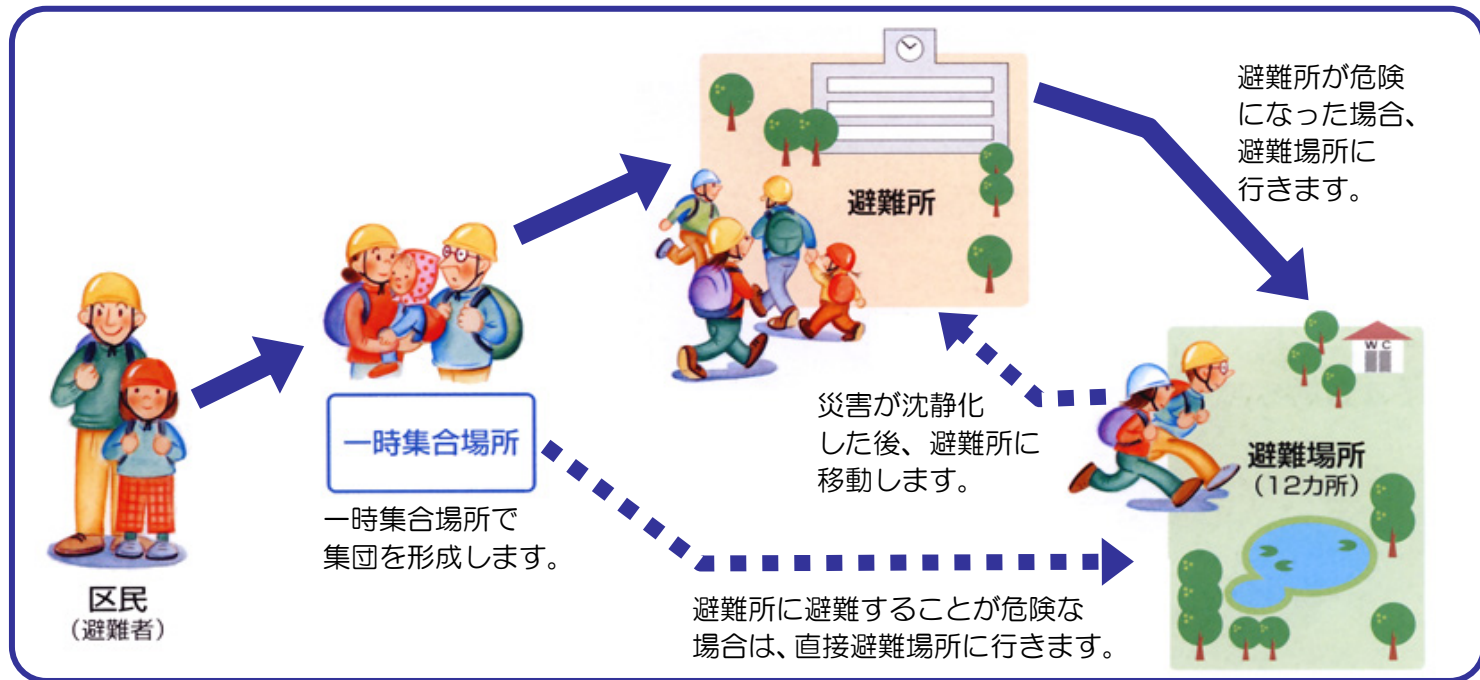
が起きたら、

避難所 or 避難場所

あなたはどこへ避難しますか？

地震による被害の規模により、避難する場所は異なります。

町会・自治会・災害協力隊ごとに一時集合場所に集まり、避難場所や避難所に避難します。大規模火災が発生した場合は、東京都が指定している避難場所へ。大規模火災がない時は、お近くの小学校等の避難所へ。



■避難所と避難場所とは、どう違うの？

避難所とは、地震で家屋が倒壊したり、倒壊のおそれがある場合に一時的な避難生活を送る場所です。

一方、避難場所とは、大震火災時の市街地大火から身の安全を確保し、火勢の衰えを待つ場所です。

**避難場所・避難所は、
防災マップやホームページで確認しておきましょう！**

防災センター2階展示コーナーには全種類、江東区内の出張所や図書館では一部の種類ですが、防災マップを無償配布しています。また下記PCサイトから印刷することもできます。

●インターネット防災センター

PCサイト <http://bosai-net.bosai-koto.lg.jp/kotoHP/>

携帯サイト <http://bosai-net.bosai-koto.lg.jp/kotoHP/m/>

9月1日は

防災の日

関東大震災

83年前の1923年(大正12年)9月1日午前11時58分40秒に、伊豆大島、相模湾を震源として発生した直下型の大地震(M7.9)によって、東京都・神奈川県・千葉県・静岡県以南の関東地方を中心に、関東地方の広い範囲に大きな被害をもたらしました。地震の発生時刻が昼食の時間帯と重なったことから火災が多く発生し、加えて能登半島付近に位置していた台風により関東地方全域で風が吹いていたことが当時の天気図で確認されています。火災は地震発生時の強風に煽られ、「陸軍本所被服廠跡地惨事」で知られる火災旋風を引き起こしながら広まり、鎮火したのは2日後の9月3日午前10時頃といわれています。この地震災害の日にちなんで1960年、防災の日に制定されました。

これからは様々な周知方法で可能な限り、区民が知っておくべき避難方法や情報を繰り返しPRするとともに、災害協力隊をはじめとする地域との連携を図りながら、地域力を向上させるために、総合的に支援体制を強化していかなければならないと思います。人とのつながりを大切に、お互いを助けあい支えあうことのできる防災の輪を広げていきたいと思っています。

